

交通事故死者ゼロに向けた車両データの利活用（インフラ管理） 量産車両データを活用した道路異常検知技術

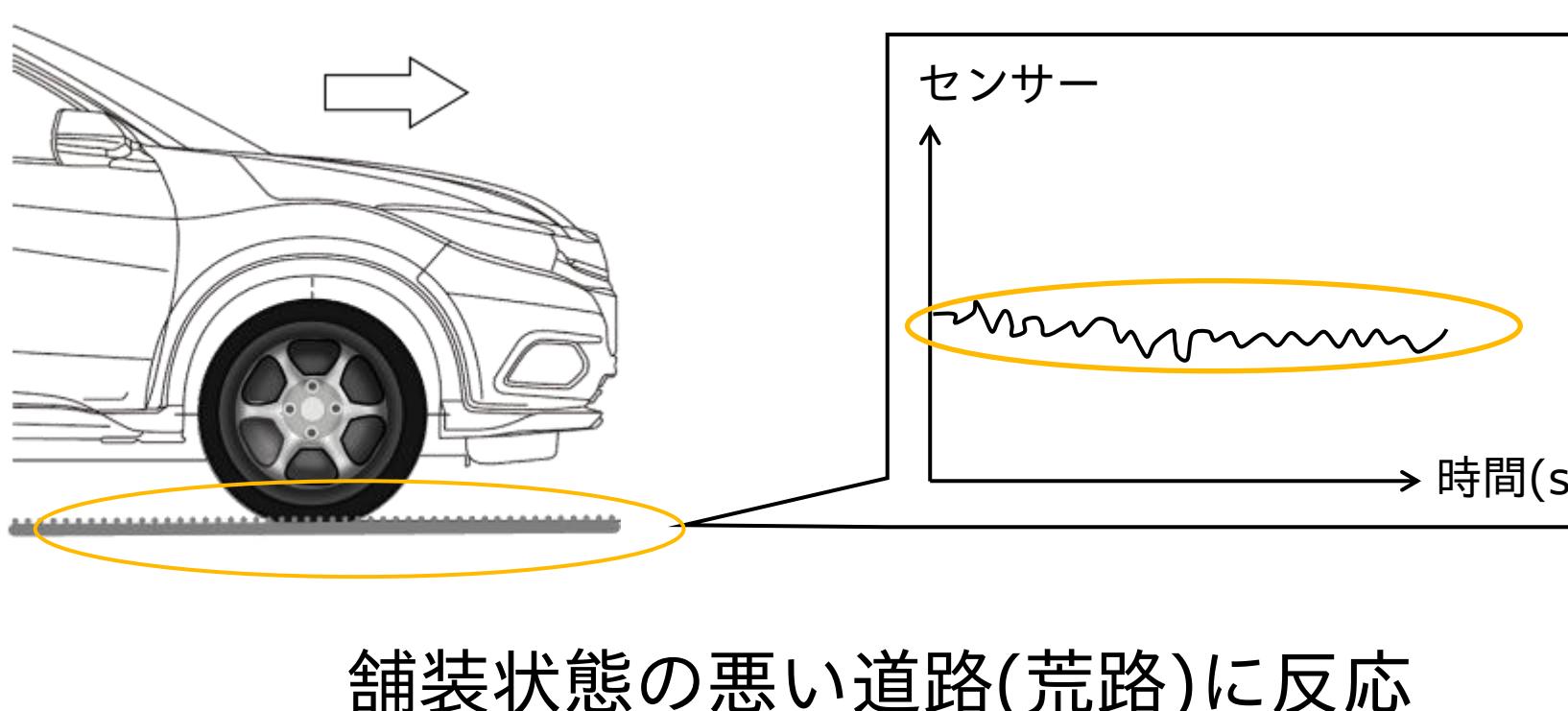
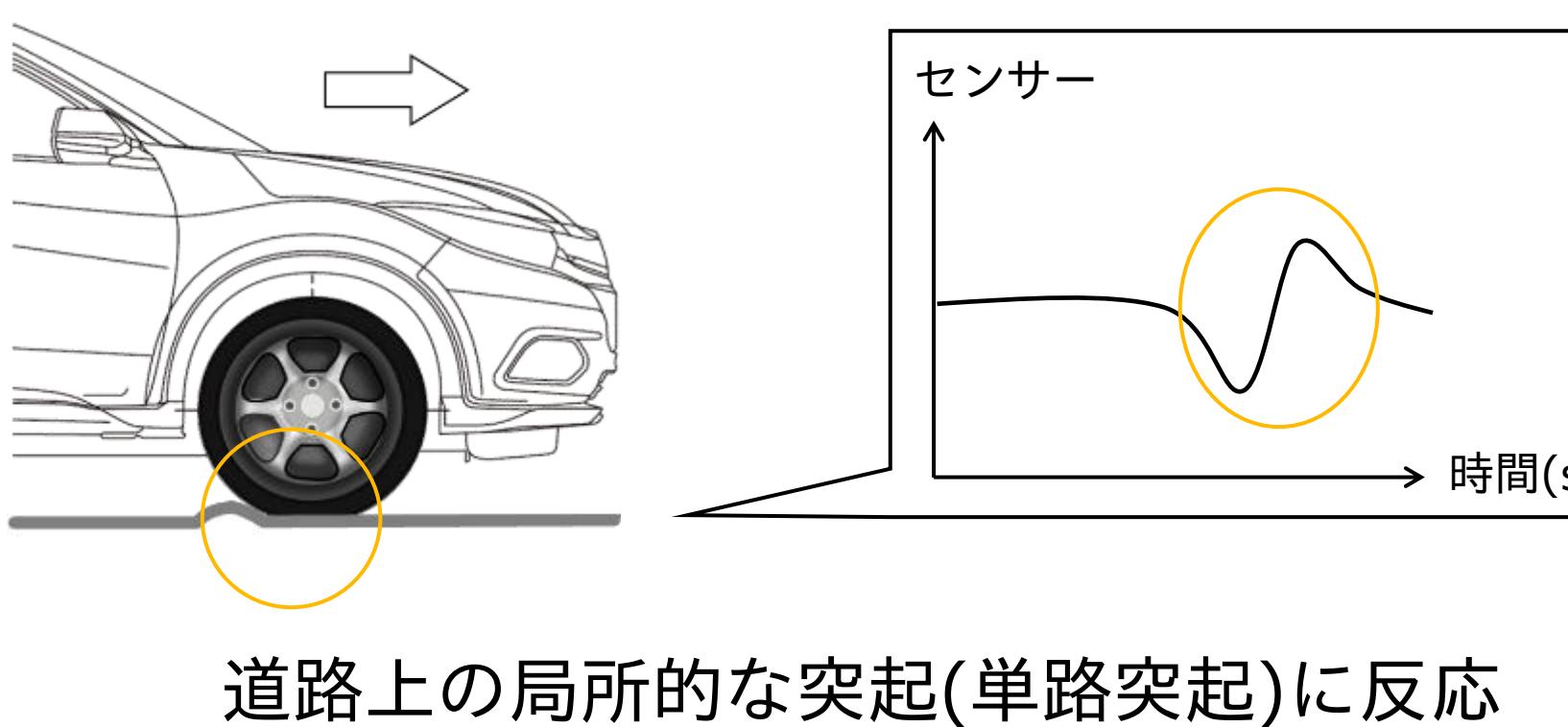
量産車両を活用した道路状態の把握により現在の状況に適した対応や劣化を予測、より低コストで即時性の高い道路管理を実現

技術内容

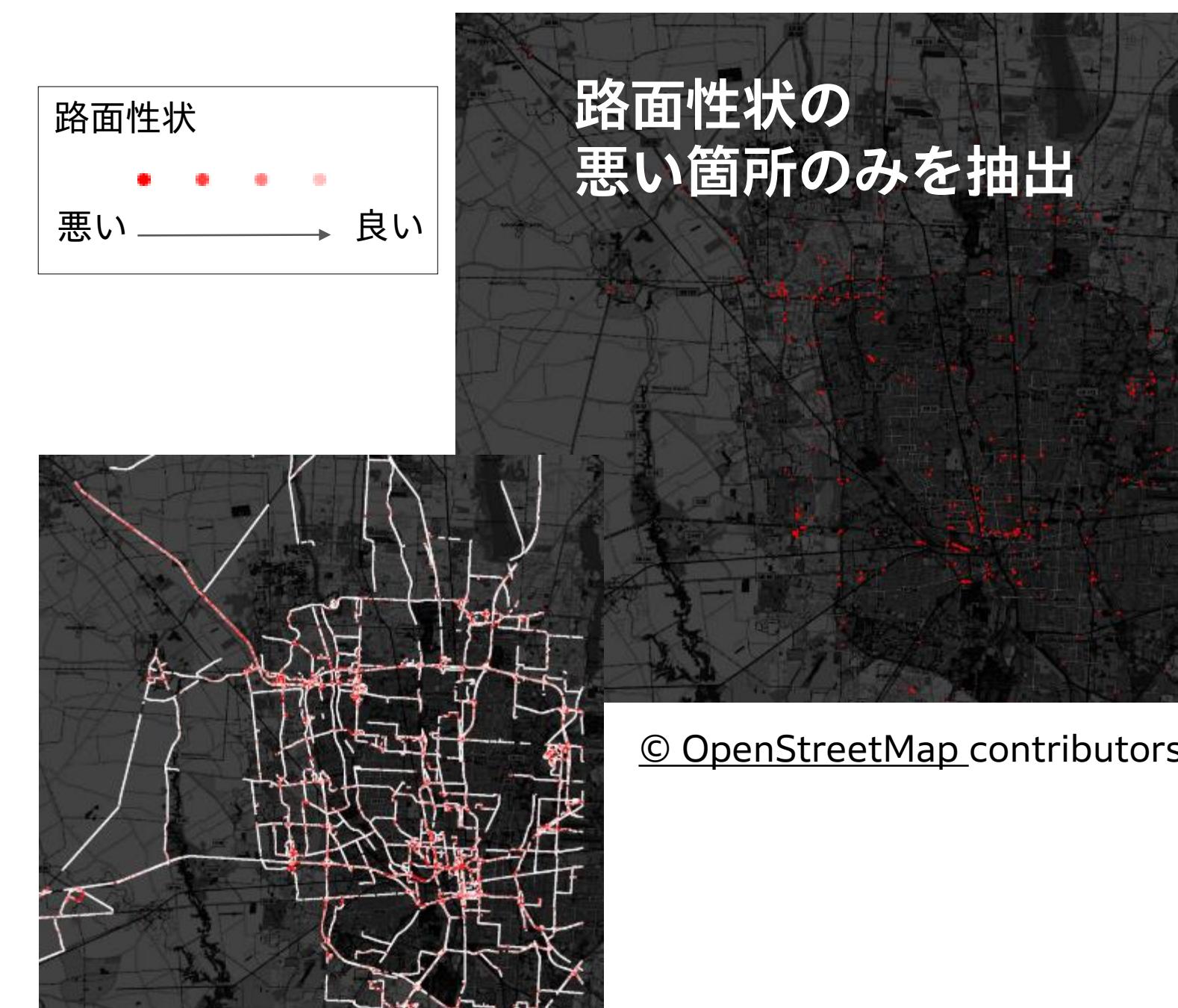
- 量産車両の走行データ（位置・速度・Gセンサー情報など）を活用し、道路損傷状況をスコアリング
- 道路損傷箇所をGIS上に可視化、閾値を設定することで損傷レベルが高い箇所を抽出
- 過去データを用いた経年分析をすることで、道路損傷スピードが早い箇所の特定や未来の劣化状況を予測

技術の特徴

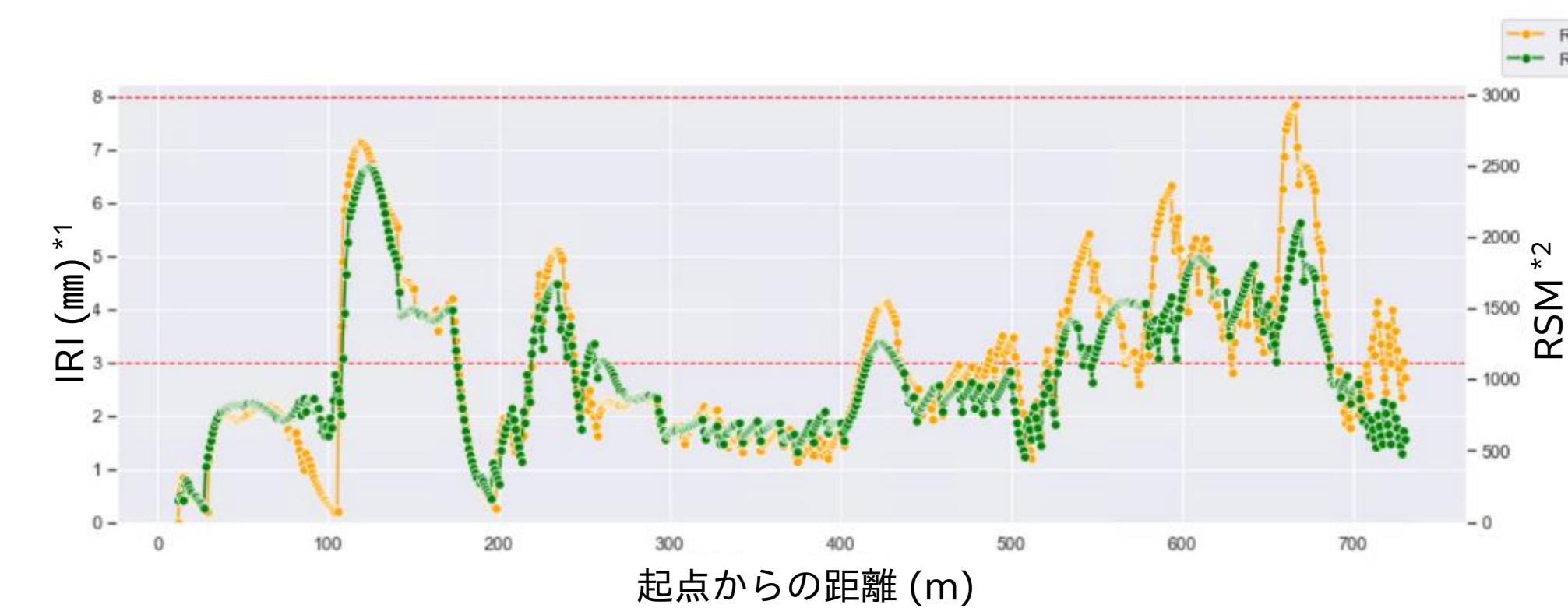
- 生活道路含め網羅的に道路損傷状況を把握することができる
- リアルタイムに道路損傷状況を把握することができる
- 任意の閾値設定により、各地域の状況に合った優先順位付けができる
- 経年劣化状況を分析することで、未来の劣化状況を予測することができる



GISマップ可視化



過去データを用いた経年分析



^{*1} IRI (International Roughness Index): 道路の平坦性を示す国際標準指標
^{*2} RSM (Road Surface Monitoring): Honda独自の道路の平坦性を示す指標
^{*3} ---: 一般的な路面管理基準数値

将来的な自動運転技術の普及を見据え、路面以外のさまざまな道路インフラの効率的な管理が可能に